



2019-2020活動報告

オヤジたちの国際貢献(15)



認定特定非営利活動法人

JMAS 日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service



発刊に寄せて

JMASは、昨年も世界の4カ国で着実に成果を上げ、現地の人々はもちろん、各活動国の政府等からも高い評価と信頼を得ております。これらは、皆様方のご理解と、ご支援・ご協力の賜物であり、心から御礼申し上げます。

今年で18年目となるJMASの活動は、紛れもなく「継承・守成」の時期にあります。関係機関等の努力にもかかわらず、地雷等による被害やこれらの処理への関心や支援は国際的にも低下傾向にあり、当会の会員数も急減しつつあります。

しかしながら、国際支援への世界の要望・要求は、地雷等処理も含め一向に減らず、その分野も、処理地域の活用をはじめ、環境保全、各種技術の教育等多様化し、他の機関やNPO等との協力の必要も増しつつあります。このような状況下、微力ながらも日本の顔として現地で汗をかき、現地と国際社会の求めに応えているJMASには、現状への安住や停滞は決して許されません。

JMASは2年後に創立20周年を迎えますが、今一度、「創業・垂統」の時代に思いを馳せ、先代が示された創造力、気魄・気概を発揮し、日本人としての誇りを胸に国際貢献に前向きに挑戦して参ります。

今後も、引き続きのご理解と、ご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。



会長 岡部俊哉



1 概観

(1) 世界の地雷不発弾(ERW)問題の現状

オタワ条約加盟国：164、未加盟国33、2019年加盟国0
世界の目標：～2025年処理目標国28、以降目標国4
地雷汚染国：60（加盟国34、非加盟国26）、処理終了32
地雷被害者：2018年50ヶ国6,897（文民71%（子供40%））
死者3,059、傷者3,837
主な被害国：アフガニスタン、マリ、ミャンマー、ナイジェリア、シリア、ウクライナ



重度汚染国(100km²<)：12：アフガニスタン、アンゴラ、カンボジア、ボスニアヘルツェゴビナ、チャド、クロアチア、イラク、タイ、トルコ、イエメン、アゼルバイジャン、西サハラ
2018年処理面積：140km²：クロアチア、カンボジア、アフガニスタンで80%

地雷使用者：国家：ミャンマーのみ（未加盟、～2019年使用）
武装集団：17ヶ国内：アフガニスタン、インド、ミャンマー、パキスタン等
地雷製造国：11：中国、ミャンマー、北朝鮮、ロシア、韓国等、製造停止国：41
輸出疑惑国：9：中国、インド、イスラエル、パキスタン、ロシア、韓国、米国等

処理資金額：2018年約650億円（国際支援92%）
主要ドナー：米国、EU、英国、ノルウェー、ドイツで約430億円（総額の71%）
主要投入先：イラク、アフガニスタン、シリア、クロアチア、ラオスに約330億円（55%）
（資料：ICBL 2019 Landmine Monitor Report）



(2) JMAS 2019-2020活動概観

ア 全般

JMASは、2002年発足以来、地雷問題を重点課題とする外務省や、個人及び法人の会員・寄付者の皆様、地雷除去機や世界初のクラスター子弾処理機等の無償貸与や、学校や道路の建設等様々な地域復興支援に取り組むコマツを始めとする特別協力企業・団体の物心両面のご支援のもと、世界の7ヶ国で、地雷不発弾や海中のERW等の処理、武装解除、各種の地域復興支援等を行なってきました。



地雷除去



不発弾処理



武装解除



戦没船ERW処理



各種施設建設



道路建設補修

イ 成果の概要

2019-2020年、カンボジアでは地雷不発弾処理技術の移譲とともにこれらの処理及び地域復興支援を、ラオスではクラスター子弾の処理を、パラオでは戦没船の不発弾等の探査及び処理等、ミクロネシアでは戦没船内の油の調査及び回収を続けました。

地雷不発弾除去面積(カンボジア): 291ha(2.91 km²)

地雷不発弾処理数(カンボジア): 1,150発

クラスター子弾処理数: 1,158発

同上安全化面積(ラオス): 71ha(0.71 km²)

処理技術教育: 3ヶ事業、94名

危険回避教育(カンボジア): 195回、5,738名

学校建設: 1校

道路新設: 1.4km

既存道整備: 6.5km

側溝整備: 2.8km

暗渠構築: 4ヶ所

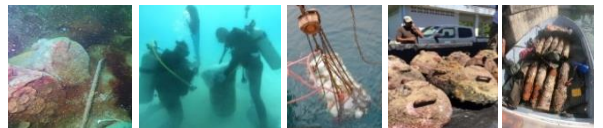
戦没船状況調査: 6隻

爆雷処理: 74発

水際機雷等処理: 27発(回収: 3,700発)

滞留油回収: 3,232kg

潜水等技術移転: 11名



(3) 展望

国際社会の平和と発展には地道な共存努力が不可欠です。オタワ条約には、日本も当初から加盟し、以来主な支援国の一つであり続けており、世界は2025年までにこの問題を解決すべく取り組んでいます。

JMASの活動は、日本のNPOの中では極めて特異な活動分野ですが、2025年を視野に引続き努力することが、現地はもちろん、日本や国際社会にとっても重要であることは論を待ちません。その中で、現地で活動に励む要員各位には、改めて健康及び安全管理の徹底をお願いします。

私どもは、引き続き、持てる知見と技術そして情熱を核に、様々な課題に取り組んで参ります。個人及び法人の会員及び寄付者各位、特別協力企業及び外務省の皆様には引き続きのご支援を、そして、本誌を一読されました方には、是非とも、会員や要員等としてのご参加や、ご支援ご協力をお願い申し上げます。



理事長 鈴木純治



2 国別活動状況

(1)カンボジア王国



現地代表
末永典良

JMAS邦人現地要員 (SVC下菌専門家は別記)

末永: JMASカンボジアは、現在3事業を展開中ですが、今年から活動内容が大きく変化します。長く地雷に苦しむ村々の貧困撲滅に直結するよう、従来の地雷不発弾処理に加え、処理後のインフラ整備～農業支援を一貫して行っていきます。スローガンは、**一地雷原を美しい緑の農地へ!**

横山: この国の人たち、ひいては日本人の幸せに貢献できているならば大変嬉しく思います。



総務主任
横山圭介



CMD専門家
今 雅人



CMD専門家
菅原章二



PCD専門家
中野雅仁



PCD専門家
金田浩之

今: コンポントム州で、地雷・クラスター弾・不発弾処理の監督、支援をしています。

菅原: カンボジア現地入り6年目、「初心に帰れ」をモットーに頑張ります。健康第一。

中野: カンボジア3年目! 地域の発展がやっと目に見えるようになり充実した日々です。

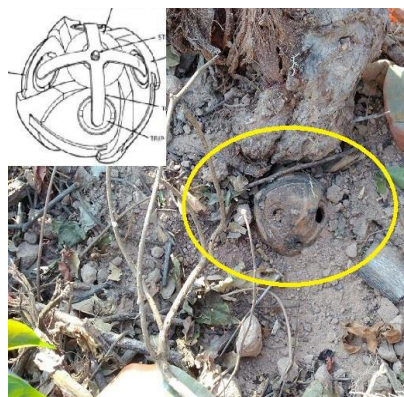
金田: 現役3回の国際貢献で得た国際感覚を発揮し住民と文化の違いを楽しんでいます。

① コンポントム州での地雷・不発弾処理に関連する総合機械処理事業

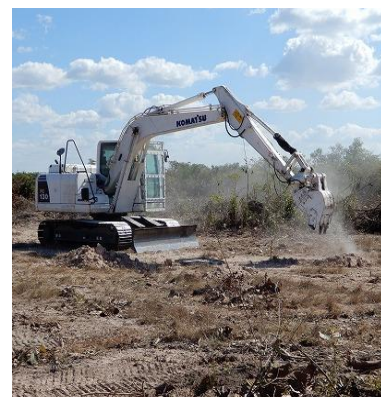
総合機械処理事業は3ヶ年計画で、第2期を本年2月29日に終了し、3月1日から第3期事業を始めました。この事業は、不発弾処理だけでなく、地雷、クラスター弾を含む爆発性戦争残存物(ERW)を処理するチームの能力向上を図るもので、座学と実習で、一般処理員から教官要員まで教育しています。第2期事業では4個チーム(32名)を教育しました。第3期事業では、第2期事業と同様に、4個チーム(32名)を教育中です。



野外教場における教育



探知したクラスター子弾



クラスター子弾処理機で処理



野外での教育



地雷除去機よる処理



発見された対人地雷



イベンジャーによる探査



危険回避教育



住民への聴き取りと教育

② バンテアイミアンチェイ州での地雷・不発弾処理を伴う地域開発促進事業

地域開発促進事業は3ヶ年計画で、第2期事業を昨年年10月7日に終了し、10月8日から第3期事業を始めました。この事業では、コマツから無償貸与された対人地雷除去機を使い、座学と実習により、機械と人力による統合地雷処理を、一般処理要員から教官要員まで教育しています。第2期事業では、4個チーム(49名)を教育しました。第3期事業では、第2期事業と同様4個チーム(49名)を教育中です。



安全管理教育



処理作業開始前の安全祈願



地雷除去機よる地雷処理



地雷探知機による探査



次々に発見される対人地雷



住民からの聴き取り調査

③-1 地域復興支援(Safety Village Construction)事業

この事業(SVC)では、支援企業であるコマツの寄附金をもとに、地雷除去後の安全化された土地で、住民の生活・経済環境を整え、地域復興を支援しています。

事業内容

JMAS邦人現地要員SVC専門家

時期:2019年4月1日~2020年3月31日

(本事業は2008年より継続して実施中)

場所:バンテアイミアンチェイ州マライ郡内・

バットンバン州チャイミンチェイコミュニティ内

- ①道路新設 ②既存道整備 ③側溝構築
- ④井戸建設 ⑤暗渠構築 ⑥溜池 ⑥学校建設



下菌修良

2011年以來です。老害と言われたいように気を付けています。

事業成果

(2020年.3月末)

	道路新設	既存道整備	側溝構築	井戸建設	暗渠構築	溜め池	学校建設
目標	1.4km	6km	2.8km	今年度なし	1~2箇所	今年度なし	1校
成果	100%	6.5km	100%	0	4箇所	0	100%

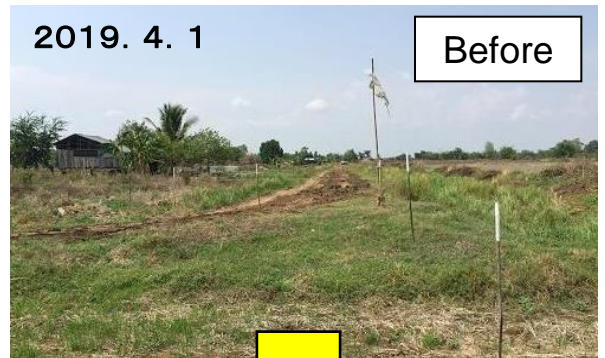


新しい「コマツアクピワット小学校」引き渡し式典

< 学校及び道路等の建設 >

2019. 4. 1

Before



2019. 4. 29

After



住民の意見を聞きつつの既存道路の補修

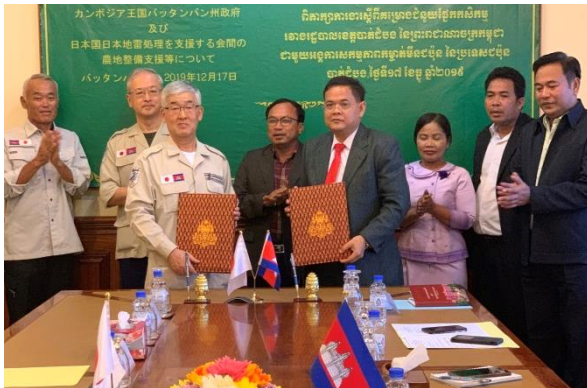
③-2 農地整備支援 FMS(Farmland Maintenance Support)事業

この事業(FMS)では、支援企業であるコマツからの寄附金をもとに、水田や畑作地帯を整備し、収穫量を増加させることにより、地域の発展を支援しています。

時期： 2020年1月よりパイロット事業開始

場所： バットンバン州 プノム郡、及びラタナックモンドール郡内

内容： ①測量 ②各圃場の記録 ③土地の均平化 ④勾配設置 ⑤道路・水路・溜池構築 ⑥あぜ道の再整備 ⑦耕起・石等除去・除草・直播等



2019.12.17、FMS・PLT事業提案書に署名



FMS事業に関するスタッフ一同



コマツより3機種(ホイールローダ・ブルドーザ・油圧ショベル)を1月上旬無償貸与



農機アタッチメントを装着したブルドーザ



JMAS現地スタッフによる測量



試験的に実施する郡保有地

(2)ラオス人民民主共和国

JMAS邦人現地要員



現地代表
西城真人



事業担当兼会計主任
福 栄重



機械運用専門家
亀井英紀

亀井: 2008年からカンボジアで、現在はラオスで機械処理や地域開発事業を担当しています。どんな時でも他人を思いやれる人間でありたいです。

西城: 平成16年からカンボジア、23年からラオスのサラワン県、チャンパサック県で、農業予定地の不発弾処理、現在はシェンクワン県で、クラスター子弾不発弾の機械処理をしています。これからも、地域の人達の安心、安全を守るため活動して行きます。皆様方のご支援、宜しくお願いいたします。

福 : 2008年からアンゴラで、2017年12月からラオスで勤務中です。2020年2月ビエンチャンに連絡事務所を開設、主に各省庁や関係機関との調整をしています。

シェンクワン県におけるクラスター小弾機械処理促進事業

この事業は、不発弾による地域の経済的障害を除くため、これまでの処理機の使用で得た機械処理のSOP(手順書)により、汚染度が激しい地域のクラスター子弾の処理を加速し、あわせて、共同するUXO Laoの機械操作員・整備員が将来独自で機械処理をするため必要な知識と技能を教育するため、2019年12月からシェンクワン県で始めました。



民家近くの不発弾探査



発見されたクラスター子弾



処理中のクラスター子弾処理機



爆破処理状況



JICA協力隊員の研修



モン族の正月行事

(3) パラオ共和国

JMAS邦人現地要員



2019事業現地代表
島田 正登



総務会計
村上 久子



ERW専門家(主任)
田村 博義



ERW専門家
篠山 浩司



ERW専門家
瀧田 淳一

島田：3月岩田代表から引継ぎました。2019事業をますます充実した活動にしたいと思います。
村上：3月米田担当から引継ぎました。総務会計業務でJMAS活動の後方支援、頑張ります。
田村：3月白木さんの後任に。常夏の紫外線で真っ赤に日焼けしましたが負けずに頑張ります。
篠山：2016年3月から、パラオ初のERW水中処理班設立を目標に、技術移転教育中です。
瀧田：2016年7月から、安全を念頭に、技術移転もやりがいとし、不発弾処理をしています。



ERW専門家
橘 利至

橘：2019年5月から爆雷等の処理を行い、世界遺産の海を守るため日々頑張っています。
星野：2019年3月参加。人身事故なく活動しているのは安全管理の賜物と自負しています。
岩田前代表：1年間の勤務でしたが、事業はパラオの発展に寄与していると思います。
米田前担当：今後も両国の友好に尽くします。
白木前専門家：2年間自衛隊の経験を生かしました。



パラメディック
星野 光男

不発弾(ERW)処理事業

世界有数のダイビングスポットがある観光立国パラオは、多くの外国人観光客や日本人にも人気の国です。しかし、第二次大戦の激戦地で、今も多くの不発弾(ERW)が処理されないまま陸上や海中に残され、環境を汚染し、観光開発などの妨げとなっています。JMASは、2012年12月に活動を開始し、主に海中と水際で探査を行い、パラオ政府との調整に基づき、不発弾等の処理(安全化・焼却・爆破等)を行っています。



爆雷状態の確認作業



ヘルメットレック(通称)
船首側が深く傾斜しており、
第2船倉・第3船倉に爆雷が
積載されている。
(水深15m~35m)

不発弾(ERW)処理

2018年3月から3ヶ年計画で、コロール州マラカル湾内の沈没船「ヘルメットレック」に残されている爆雷の処分及びパラオ政府から依頼された不発弾処分を実施しています。本年度は、ヘルメットレック内で確認できている163発中、74発を、NPA(ノルウェーのNGO)と共同して処分しました。



揚収準備(甲板)



爆雷揚収作業



海上の筏に吊り下げ



筏から船に積み替え



海上輸送



陸上輸送し焼却場で焼却

技術移転教育

コロール州レンジャー6名を対象に、水中での不発弾等探査及び処分要領について、段階的に技術移転教育を行っています。



コロール州レンジャー隊員



潜水基礎訓練



爆雷揚収要領訓練(浅海域)

(4)ミクロネシア連邦

JMAS邦人現地要員



現地代表
井上 潔



主任専門家
牧 正彦



副主任専門家
金子 則雄

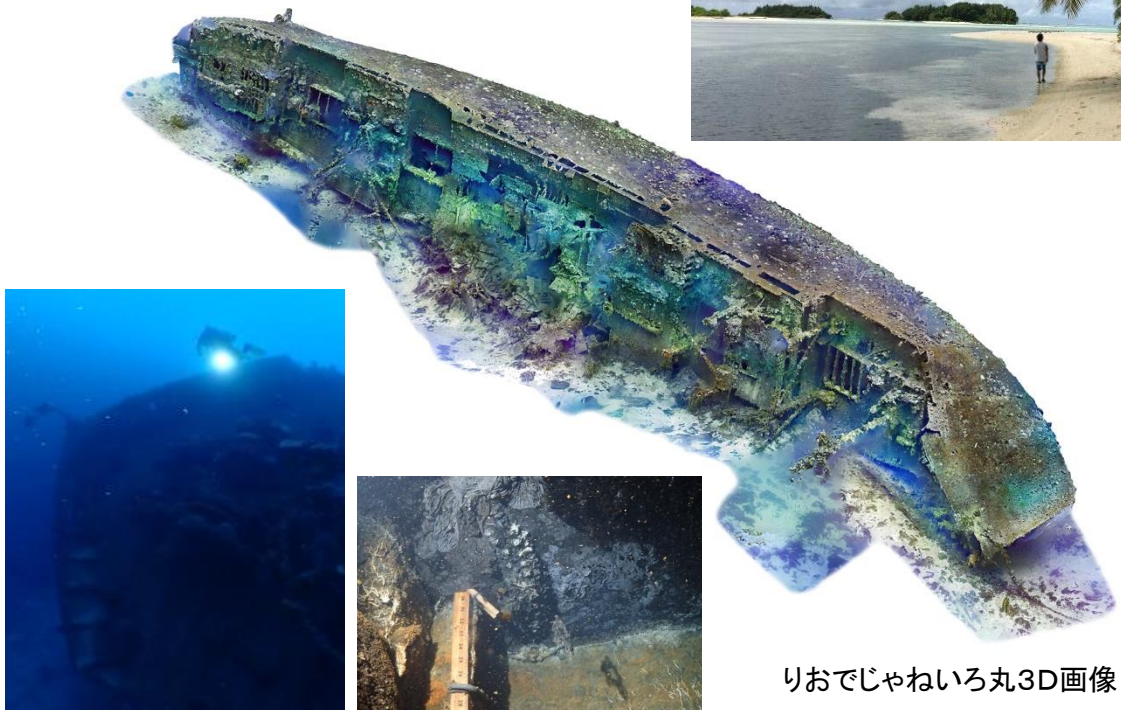
金子: 北東風が強い。チュークラグーンはボートの揺れも半端ない。新型コロナウイルスによる入国制限で島は閑古鳥。

井上: チュークへ来て早くも3年が経とうとしています。ローカルの人々が町で我々を見かけると「Hello, JMAS」と声をかけてくれるようになりました。美しいチュークの海と、水中文化遺産であるWRRECKを保護するためこれからも頑張ります。

牧: 自衛隊経験を活かし、国際貢献に頑張っています。南国は楽しいですよ。

ミクロネシア・トラック環礁海域における戦没船油漏れ対策事業

ミクロネシア連邦チューク州(旧トラック諸島)には、第2次世界大戦で多くの旧日本軍艦船が航空攻撃を受けて沈んでいます。戦後70年以上を経た今、これらの戦没船から油が漏れ出し、美しい海を汚染しつつあります。



りおでじゃねいろ丸3D画像



戦没船



天井に滞留した油脂

成果の概要

2017年5月開始した本事業も3年目を迎え、調査対象船15隻の捜索・位置の特定及び11隻の油脂漏洩状況を確認しました。

漏油の回収は、1・2年次合計3,943Kgになりました。また、技術移転も州政府職員ダイバー2名に油回収方法、潜水時の安全確保要領を教育するとともに、要員拡大のためダイバーの養成を実施中です。



戦没船調査



油回収用ホースを戦没船に設置する専門家



油にノズルを差し込んで回収準備



船上のポンプで油を回収



州政府職員に対する潜水訓練



佐藤議員、側嶋大使来訪、活動状況報告

3 本部

(1) 全般

本部では、6月12日に第17回総会を開催、令和元年度の事業計画等が承認されました。7月には、理事長がカンボジアでの活動の視察及び小学校の開校式に参加しました。2月19日に顧問会議を開催し、顧問の方々から有益なご教示を頂きました。理事会では、年間を通じ様々な案件が活発な審議を経て処理されました。



第17回総会



懇親会



理事長の開校式祝辞



顧問会議後の懇親会

(2) 遺骨収集推進関連事項

日本戦没者遺骨収集推進協会の構成社員として関係会議に参加しました。

(3) ウガンダ共和国現地調査

国連工業開発機関(UNIDO)のウガンダでの建設機械オペレータ訓練プロジェクトの現地調査を受注し、2019年12月、ウガンダ及びドバイで、道路の建設機械オペレータの労働ニーズやオペレータに必要なスキル及び同訓練教官に必要なスキル等を約3週間調査しました。調査結果は、同プロジェクトが行なうオペレータ訓練に反映される予定です。



DIT(産業訓練局)とのミーティング



コマツ代理店での研修



MOWT(建設省)とミーティング

(4) 広報活動

今年度の現地・本部での研修は合計32件242名、講演・講義は2件90名でした。本部での研修は中学校・高等学校が3件、出前講義は賢人会、船岡駐屯地修親会の2件でした。今年度も、5月のラオスフェスタ、10月のグローバルフェスタ、2月の防衛施設学会年次フォーラム等で会の活動を展示・説明し、JMASへの協力と支援をお願いしました。



高知商業高校本部研修



東京女学館中学本部研修



関市立板取川中学本部研修



ラオスフェスタ参加



グローバルフェスタ参加



防衛施設学会総会での展示

4 会勢概況(令和2年3月31日現在)

(1) 会員： 個人正会員 247名 法人正会員 45社 賛助会員 31名

(2) 寄附件数： 92件

(3) 特別協力企業・団体

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	株式会社 IHIエアロスペース	34	公益財団法人 隊友会
2	IOS 株式会社	35	大和探査技術 株式会社
3	青森駐屯地修親会	36	多賀城駐屯地修親会
4	明野駐屯地修親会	37	株式会社 ダスキン龍ヶ崎
5	アサガミ 株式会社	38	中国化薬 株式会社
6	旭精機工業 株式会社	39	株式会社 通信設備エンジニアリング
7	有限会社 アップワールド	40	土浦駐屯地修親会
8	ANAホールディングス 株式会社	41	デジタルリサーチ 株式会社
9	伊丹駐屯地修親会	42	豊田通商 株式会社 自動車本部
10	岩手駐屯地修親会・曹友会	43	日油技研工業 株式会社
11	(株)インフォメーション・ディベロプメント	44	ニッセイ保険エージェンシー 株式会社
12	小原台クラブ	45	日本工機 株式会社
13	海田市駐屯地修親会・曹友会	46	日本電気 株式会社
14	春日井駐屯地修親会	47	日本原駐屯地修親会
15	幹部候補生学校修親会	48	函館駐屯地修親会
16	北千歳駐屯地修親会	49	深田サルベージ建設 株式会社 東京支社
17	株式会社 クレスコ one%club	50	藤倉航装 株式會社
18	小牧基地OBOGテントの集い	51	富士修親会
19	コマツ	52	富士通 株式会社
20	株式会社 コンサルトファーム	53	船岡駐屯地修親会
21	株式会社 相模工業	54	公益財団法人 防衛基盤整備協会
22	相模原中ロータリークラブ	55	一般財団法人 防衛弘済会
23	三木会	56	北海道日油 株式会社
24	三信製織 株式会社	57	幌別駐屯地修親会・曹友会
25	島松駐屯地修親会	58	マイクロン・コー 株式会社
26	下志津駐屯地修親会	59	松戸駐屯地修親会
27	尚友会	60	NPO法人 松戸あんしんサポートネット
28	神町駐屯地修親会	61	株式会社 武蔵富装
29	新陽 株式会社	62	山本造船 株式会社
30	住友商事 株式会社 建設機械事業本部	63	リコーエレメックス 株式会社
31	仙台駐屯地業務隊OB会	64	留萌駐屯地修親会
32	仙台駐屯地修親会	65	レディス枚方21
33	ダイキン工業 株式会社		

◆ 継続的に協力・支援を頂いている企業・団体を紹介しています。

(4) 寄附型自動販売機協力企業

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	アサガミ 株式会社	5	昭和金属工業 株式会社
2	旭精機工業 株式会社	6	日油技研工業 株式会社
3	株式会社 通信設備エンジニアリング	7	富士通 株式会社
4	コマツ		

ご支援のお願い

JMASの活動は、皆様からのご支援に支えられております。ご支援、ご協力宜しくお願い致します。

正会員

個人：10,000円/年
法人：1口(50,000円)以上/年

賛助会員

1口(1,000円)以上/年
「寄付金控除」の対象です

ご寄付

JMASへのご寄付は税法上の
「寄付金控除」の対象です

お振込み方法

<郵便口座へのお振込み>

口座名：特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会
口座番号：00170-1-13709

<銀行口座へのお振込み>

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：市ヶ谷支店(店番014)
口座名：特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会
口座番号：普通口座 1320125

他にもこんなご支援の法方があります

ドリンク1本で参加出来る **国際貢献** があります。

2015年度は寄付型自動販売機により685,352円の寄付が集まりました。ご協力ありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。

●寄付金は地雷原を安全化した後、このように活用されます

- 井戸の造成**
地雷跡地を終えた土地への
地雷が多い地域では水道は普及しておらず、多くの女性や子供たちが、何キロも歩いて水を運んでいます。
- 危険回避教育**
男の子もたちへの
地雷・不発弾事故の危険を回避するための啓蒙教育が必要とされています。
- 作成・配布**
地雷のポスター・ノート及びTシャツなどの
地域の住民への呼びかけは重要な活動の1つとなります。



認定特定非営利活動法人

日本地雷処理を支援する会

自動販売機設置に関するお問合せ

特定非営利活動法人
寄付型自動販売機普及協会
<http://kjf.or.jp/> ☎0120-937-650

※JMAS 寄付型自動販売機の設置には設置要領、販売経路等が規定されています。

① 書き損じハガキをお送りください
書き損じはがき郵送用として、返信用封筒をお送り致します。

② オンラインサイトからの寄附(2種)



「ギブワン/Give One」サイトアドレス：
<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10116>

Just Giving Japan

あなた発のチャリティ・プロジェクト。

「ジャストギビング/Just Giving」サイトアドレス：<http://justgiving.jp/npo/229>

③ 寄付型自動販売機の設置ご協力をお願い

JMAS寄付型自動販売機の売り上げの一部は、当会への寄付になります。

①設置、置き換え無料 ②手間や費用は不要 ③全国どこでも設置可能

★ 詳細などは、お気軽に事務局にお問合せ下さい。

TEL: 03-6261-7851 FAX: 03-6261-7852

E-mail: jmas-hq@jmas-ngo.jp

URL: <http://www.jmas-ngo.jp>

